

隠岐から 食卓に笑顔を届けたい

島根県隠岐島後 戸田さおり

インターネット通販「隠岐笑店」がオープンしたのは今年四月。届けるのは隠岐の美味しいもの、でも、それだけではない。生産者や作り手の想いも伝えることで、お客さんとの信頼関係を築き、島同士の連携、交流人口の拡大も視野に入れている。美味なる島の味で笑顔をつなげていこうよ。――隠岐の新たな活動を担う若者たちからの報告。

私たちは隠岐に住む、隠岐が大好きな集団です。隠岐から食卓に笑顔をお届けしたいという気持ちを含めて「隠岐笑店（おきしようてん）」と名付けました。お客さまのその笑顔が、まわりまわって、私たちの隠岐島を元気にします。

■ L L P の発足

四つの有人島からなる隠岐諸島。人口は四島合わせて

も二万四〇〇〇人を割り、少子・高齢化が進んでいます。本土からは高速船で一時間ちょっと、大阪からは飛行機で一時間の島です。昨年は新隠岐空港が開港し、夏季の繁忙期には、隠岐―伊丹間にジェット機も就航しました。しかし、島を訪れる観光客数の減少は止まらず、島は活気を失いつつあります。

四島それぞれが危機感を抱きつつも打開できない大きな壁が、隠岐の明るい未来をさえぎっているようにも思われます。その大きな壁を壊そうと、宿泊施設三社・隠

岐汽船・IT会社が手を取り合い、「隠岐観光義塾有限責任事業組合」(LLP)を今年四月に発足させたのです(事務所は島後に設置)。

このLLPは知識・技術・アイデアなど、それぞれの持てるノウハウを活かし一つの事業を成し遂げてもらうという経済産業省の制度です。そのなかで隠岐観光義塾有限責任事業組合では、二つの事業展開を考えました。一つは「個人客向け観光商品販売事業」です。これまでのように、大手旅行エージェントに頼るのではなく、隠岐の人間が隠岐の良さを伝え個人客を誘致する、着地型のエージェントとなって交流人口の拡大を図ろうというものです。

そしてもう一つが「インターネット通販事業」です。これは隠岐観光義塾LLPの目的である交流人口拡大のためのツールの一つとして考えており、ネット通販によってつながった顧客に「隠岐ファン」になってもらい、最終的に観光客として隠岐へ訪れてもらおうというものです。

■「隠岐笑店」の誕生

隠岐ファンを作るためにも、自分たちの組織のネーミングはとても重要な意味を持っていると思っていました。みんなに長く愛される名前が良かったし、WEBでの興

味をひくもので隠岐をPRするためのインパクトも必要でした。それだけでなく、これからやろうとする取り組みの先にはとても楽しい未来が想像できたので、愛情をたっぷり込めて名前を考えたとたつたのです。たくさんの人との出会いが待っていることも楽しみだったし、新しいアイデアも次々に生まれる予感、何より最高で最強のメンバーに出会えた喜びが大きかったです。

そしてある冬の夜、メンバーとお酒を飲みながら「自分が笑顔になれる場所を見つけた」という話から「この笑顔を日本中に届けようよ」となり、「美味しいものや笑顔を届けるなんて素敵じゃない？」と酔いもテンションも上がっていきました。その時、日本酒の入ったおちょよこ片手に生まれたのがインターネット通販「隠岐笑店」なのです。

■家庭円満・食卓笑顔

島根県の日本海沖に浮かぶ隠岐諸島。暖流と寒流が交わり、手つかずで独自の生態系を維持している山からの栄養分が流れる隠岐の海は、とてもミネラルが豊富です。その美しく豊かな海で捕れた新鮮な魚介類は、とても味が良いことで知られています。カニ漁の盛んな日本海で近年高い評価を受けている「隠岐ガニ」や、古来、朝廷に献上されていたアワビも今なお一級品です。日本海



白バイ専門船長さん。男気を見せていただきました。



隠岐の特産品の一つヒオウギ貝生産者のおばさんたち。モンベがかわいいでしょ？



味噌やお菓子を作る株式会社久見特産の皆さん。パワーあふれるお母ちゃん集団です。



岩ガキ生産者さん。とても可愛がってくれる素敵なおっちゃんです。



今年1月に行われた渋谷東急での島根物産展で。隠岐笑店ユニフォームの前掛け姿で全員集合（真中が筆者）。

側で広く食されている「エッチュウバイ・白バイ」もそのほとんどが隠岐近海産です。美味しいものは海だけではありません。太古の昔、火山活動によって形成された隠岐諸島は、その山や野も美味しいモノがあふれています。

隠岐笑店は「隠岐の幸を通じて、ご家庭に笑顔をお届けし、家族円満になつてもらうこと」を事業理念に、隠岐の美味しいもので世界中に笑顔届けたいと思っています。美味しいモノを食べるとき、人は必ずと言っていいほど笑顔になります。悲しい事件が後を絶たない昨今、家庭のあるべき姿、家族の幸せは形を変えつつあるのかもしれません。合言葉は『家庭円満！ 食卓笑顔！』。
 『隠岐の美味しさ』に秘められたパワーを私たちは信じています。

■生産者とお客さまをつなげる

隠岐の自然環境から、美味しいモノがあるのは分かっています。ただけだと思いますが、本当の美味しさは、生産者の方々の自然の恵みを大切にする感謝の気持ちから生まれるのです。大量生産大量販売はできませんが、そんな美味しさの裏側をお客さまへお伝えしたいと考えたのです。

食に対する意識が強まる現代では、「安全で安心な食

品を口にする」、そんなちよつと前までは当たり前だったことが、そうではなくなってきました。消費者の求めるものは何か。ただただ美味しいだけでは、ネット通販後発組である我々は、成功しないというアドバイスも受け、生産者の方の顔や想いが分かるサイトにしようと考えました。手にとつて見ることでできないネット通販では「美味しいもの」と「お客さま」がつながるだけでは、信頼性に欠くのではないか。隠岐笑店の最終目標である交流人口拡大のためには、それではだめだと「美味しいものを作るひと」と「お客さま」をつなげる仕掛けが必要だと考えました。そこで自分たちをつなげるプロデューサーと（勝手に）位置づけたのです。

人と人とのつながりがもたらす安心感をお客さまへ、隠岐から日本中へとつなげられた喜びを生産者の方へ。その二つの笑顔で隠岐笑店はおながいっばいになるのです。

■販売プロデューサーとして

隠岐笑店スタート時に懸念されたのが、すでにある島内生産者直通サイトとのバッティングでした。価格競争にはどうやっても勝てない現実がありました。隠岐笑店の一番の強みは、美味しいものがまわりにたくさんあることです。しかし、私たちは生産者ではありません。ま

わりにたくさんあっても、食すことしかできません。

どうすればよいか。答えは、「生産者と肩をならべることはしない」ということでした。隠岐には「美味しいもの」を作る生産者の方がたくさんいらっしゃいます。地区の活性化や趣味の範囲で生産されている方も多いですが、また、広く売りたいという願望はあってもその術が分からないという方もいらっしゃいます。光のあたることのない「美味しいもの」が眠っているのです。

「じゃあ力を合わせよう！」小さな島というコミュニティのなか、先人たちが培ってきた助け合いの精神がDNAに刻まれている隠岐の人たち。「〇〇屋のあんさんかあ」とみんながどこかでつながっている隠岐の人たち。断る理由はありません。人によっては小さな頃から面倒を見てもらっているなんてことも。「持ちつ持たれつ」の人情こそが、隠岐の最大の武器だと私は思っています。そうは言っても、すでにネット販売・島内販売をされている方と同じものと同じ値段で売っても意味がありません。そこで考えたのがセット商品として複数の「美味しいモノ」を売ることでした。これは隠岐のネット通販では初の試みでした。生産者サイトとのパッケージを避けるためもありますが、力を合わせるという意味では大きな意味を持つと思っています。群島である隠岐は、同じ隠岐諸島であっても一番離れた島との間はフェリーで片道一時間かかります。他の島へ行ったことがない住

人も多く、島と島の連携はあまりとれていない現実があります。そこを打開すべく、私たち隠岐笑店が入ったのです。「隠岐を元気にしたい。隠岐から笑顔届けたいんだ」、その想いに生産者の方も賛同していただき、現在六つのセット商品ができました。

これが素敵な化学反応を起こし、素晴らしい相乗効果を生み出してくれることを願っています。それを導くために私たちがいる、そう思うと、どんどんパワーが湧いてきます。

■「隠岐笑店」が笑顔でいられるために

四月三日にオープンしてから二ヶ月。売り上げもわずかで、まだまだ「テスト期間」である今、毎日が勉強です。受注から配達までの流れも、メンバー全員が未経験者なので手探りです。また、WEBというとてつもなく広く大きな土俵で、隠岐という知名度すら低いなか、プロモーション活動に苦戦しています。WEBだけでなく、東京・大阪の都市圏で開催されるイベントに参加したり、出郷者の方の集いへお邪魔させてもらったりとリアルなつながりから、口コミで隠岐笑店を広めてもらっています。叱咤激励をたくさんいただき、お客さま、応援して下さい。下さるたくさんの方たちに支えてもらっているのが現状です。

おきしよとう 隠岐諸島 data

島根半島の沖合に位置し、島後、中ノ島、西ノ島、知夫里島と4つの有人島からなる。最も大きい島は島後。平成16年10月に4町村が合併し、「隠岐の島町」となる。漁業を基幹産業とし、農業では稲作、葉タバコ、豆類などの栽培が盛ん。隠岐は畜産の島でも知られ、これまでは繁殖がメインだったが、中ノ島では肥育まで手がけるようになり、「隠岐牛」として流通している。隠岐海域では暖流と寒流が合流するため、北方系、南方系の植物が混生。独自の生態系を活かした観光産業にも力を入れている。



戸田さおり (とだ さおり)

昭和56年大阪府生まれ。大学で建築(都市計画)を学び、卒業と同時に隠岐島後へ就職。昨年秋に隠岐笑店メンバーと出会い、自分の存在意義を見出すために転職を決意。気がつけば肩書は店長に。隠岐の美味しいモノと笑顔を届け、お客さまの笑顔で自分たちもまた笑顔になる。そんな笑顔の循環を目指す。

どの活動のなかでも笑顔だけは忘れません。楽観主義者のメンバ―が集まっているので、さまざまな困難もポジティブに考えてしまいます。笑顔を届けようという人間が笑顔じゃなかったら、本当の笑顔なんて届けられません。私たちが本当の笑顔でいられるためには、そこにはお客さま・生産者の笑顔が必要なのです。

島という特異な環境で培った連携とそのスピードで、たくさんの笑顔を生み出していきます。一〇年後も笑っていられるように。その想いが今日も私を前へ押し通して生産者の方にあつてみたいというお客さまもで

くるかもしれない。実際に、生産者になりたいというお客さまも出てくるかもしれません。もしかすれば、嫁にしたいと思う人もいるかもしれません。

そういう人たちを生み出すためにも、継続させる強い意志とアイデアと根気、隠岐を愛する心を常に持ち続けていたいと思います。目先の売り上げももちろん重要課題ですが、一〇年後、二〇年後を想像すると、おのずと道は開かれるのではないかと、やはり楽観的に考えてまいります。ネット通販一年生の「隠岐笑店」の今年は、「明るく元気に!」そして笑顔で!」を目標に、安定に向けて模索の一年だと思っています。